

夢を追いかける



ダブルス準々決勝でプロ相手に健闘した今村（手前）・西尾組＝ハンナリーズアリーナ 撮影・水沢圭介

プロ相手に
堂々プレー

今村・西尾組

地元・京都の14歳ペア、今村・西尾組がダブルス準々決勝でプロ選手に挑んだ。ストレート負けの洗礼を受けたが、随所で大人顔負けのショットを見せ、堂々とプレーした。

序盤は要所でミスが

目立ち、第1セットは0-6で失った。第2セットも0-4とリードを許したが、見せ場はここから。「このまま終わりたいくない」と思い切りのいいストロークを展開し、積極的なボーチボレーやサーブエースもあり、3ゲームを連取。最後まで食らい続けた。

今村は音羽中、西尾

は寺戸中の2年生。所属クラブも違うが、息はぴったりだ。8月の全日本ジュニア選手権・14歳以下のダブルスで優勝。昨年の今大会は観覧席で試合を見ていたが、今年は主催者推薦で本戦出場し、1回戦を突破した。

「プロの球は重く、スピードもあった」と西尾。今村は「サーブやボレーの精度や技術が足りなかった」と課題を持ち帰り、2人は「世界で活躍する選手になる」という夢を追いかける。

（田中俊太郎）

平成28年9月9日
京都新聞朝刊